

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 大成 小学校)

学校番号 049

【様式】

学 校 教 育 目 標	心豊かで、たくましく、進んで行動する児童の育成 げんきいっぱい（たくましい子）あいさついっぱい（明るい子）なかよしいっぱい（やさしい子）
目 指 す 学 校 像	「家庭・地域とともに、ねばり強く生き抜く子どもを育てる大成小学校」 ○児童にねらいとする資質、能力、態度が身に付く学校 ○児童一人ひとりが大切にされる学校 ○美しく環境が整えられた学校

重 点 目 標	1 一人ひとりの自己肯定感を高め自信をもって活動できる児童の育成 2 S S S Pを軸とした誰一人取り残さない教育の整備と推進 3 コミュニティ・スクールを核とした保護者地域に信頼される学校づくり 4 児童が生き生きと生活できる安全安心な学校づくり 5 教職員一人ひとりの資質能力及びマネジメント力の向上
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己				評 価			学校運営協議会による評価		
		年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標		評価項目の達成状況		達成度	次年度への課題と改善策	
学びの質の向上に 関する取組	1	〈現状〉 ○学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○体験的な学習や調べたり、それらを発表したりする学習に意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○自分の考えをもち自信をもって表現していくところに課題がある。 ○タブレット端末を効果的に活用した授業が十分に行われていない。 ○教師主導型の指導する授業が多く、児童主体型の主体的・対話的な学びで個々にあった学びが十分推進されていない。	・学校評価で児童が「授業が分かった・できた・できた」の項目を向上させる。	・タブレットを活用して、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を実践することで達成感が味わえるよう、一人1公開授業に取り組む。（通年） ・コーチングを取り入れた生徒指導教育相談を推進し、児童が自らいじめ等に対応できるようにする。（通年）	・学校評価で児童が「授業が分かった・できた」の項目を昨年度（96％）より向上させたか。 ・いじめ等の生徒指導対応で未解決の案件が1件以下にしたか					学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
			・アンケートの数値を向上させる。 ・「進んで挨拶」の数値を向上させる。	・人事評価システムを活用し、教職員一人ひとりが教科指導や学級経営の項目で、児童の自己肯定感を高める取り組みを実践し向上させる。（1月まで） ・「元気なあいさつ・返事」を核とした生活指導及び校長より朝の挨拶運動での声かけを行う。（通年）	・心と生活のアンケート今年度2学期の該当設問（自己肯定・他者肯定）の数値を昨年度の3学期の数値より向上させたか。 ・児童アンケート「進んで挨拶」の数値を昨年度の90％より向上させたか。						
子どもの発達や心のサポートに関する取組	2	（現状） ○個々のタブレットを使う力はいつてきていて、有効的な活用をしている児童もいる。 ○発表等自分の考えを伝える際にICTを活用して取り組む児童もいる。 （課題） ○家庭学習での活用が不十分で学校にタブレットを置いたままにしている児童が多い。 ○使う際に慌ててログインする児童もいて、常時活用するスタイルが身に付いていない。	・学校評価のタブレット活用への肯定的な数値を高める。 ・タブレットの授業活用率を向上させる。	・スクールダッシュボードを活用し、児童の理解状況を適宜把握するとともに、一人ひとりの実態に合った学習を展開するよう指導する。（通年） ・学習の中でタブレットを活用した、児童の主体的な学び合いの時間が取り入れられるよう、校内研修等を通して指導を行う。（通年）	・学校評価の「タブレットを活用している」の肯定的な数値を90％以上にしたか。 ・タブレットの授業活用率週3日以上の数値を昨年度（76％）より向上させたか。						
			・家庭学習でのタブレットの活用頻度を向上させる。	・大成小児童の1日のタブレットの活用の仕方を明確にし、タブレットの学習での活用率を向上させる。（通年） ・3年生以上の児童が家庭学習でタブレットを活用するように学習の行い方の改善に取り組む。（通年）	・家庭学習でのタブレット活用週3日以上を75％以上にしたか。 ・家庭でのタブレット学習の行い方などのマニュアルを作成し活用したか。						
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	（現状） ○いじめ解決に向け、校内委員会等を活用し、いじめ問題について早期対応を心掛けた。 ○1小1中の関係性を活用して児童生徒や地域と連携した取り組みを行うことができた。 （課題） ○保護者からの相談でいじめが発覚することがあり、いじめの解決に時間を要する案件も見られた。 ○小中間の教職員のさらなる連携強化が必要である。	・保護者アンケート数値を昨年度より向上させる。 ・保護者に安心される学校づくりをする。	・いじめや不登校に対して迅速かつ丁寧に組織的に対応するために部会でミニケース会議を行う。（通年） ・学校だよりやHP、懇談会や行事等での保護者や地域への情報発信を行う。（通年） ・校長室を開放し、児童や教職員だけでなく、地域や保護者の方々にも相談しやすい環境を整備する。（通年）	・保護者アンケート「分かりやすい発信」「きめ細かな発信」の数値を昨年度（92％）より向上させたか。 ・保護者に安心される学校づくりのためのケース会議を学期に1回以上実施したか。						
			・小中間の取り組みを昨年度以上実践する。	・1小1中の関係強化のために相互の情報交換や協力体制の構築のための情報交換会をコミュニティ・スクール以外の機会を実施する。（通年） ・小中間の連携を教職員間での授業参観や児童生徒間での音楽や学習での交流を深められるような取り組みを年間通して連携で行う。（通年）	・小中間の連携を深めるための取り組みを昨年度以上実践し連携を深めたか。 ・小中の教職員の連携を深めるための相互訪問を昨年度以上実践し連携を深めたか。						
教育環境の整備に関する取組	4	（現状） ○定期的に安全点検を行い、修繕の必要な場所について適切に対応してきた。 ○児童数と校庭の規模があっていないことから、時間と場所を制限して外遊び等を行ってきた。 （課題） ○経年劣化も含めて修繕が必要な場所に適切な対応が必要である。 ○けがの状況や発生場所等を児童一人ひとりが自分事としてとらえ、けがの予防に向き合えるようにする。	・安全点検と修繕等対応を適切に行う ・計画的に適切な予算執行を行う。	・月の安全点検の報告について事務や教頭と情報を共有し、速やかに対応する。（通年） ・事務職員と常に情報を共有し、12月までに旅費等適切な予算執行を終える（12月まで）	・安全点検後の修繕等対応未実施1件以下にしたか。 ・12月末の予算執行80％以上にする事ができたか。						
			・児童一人当たりのけがの発生率を昨年度より減少させる。	・養護教諭と共に、児童のけがが発生する場所の多いところを重点的にけがが減少するように指導を行う。（通年） ・児童一人当たりのけがの発生率を昨年度（2.7件）より減少させる。（通年）	・児童のけがの発生場所や内容についてICTを活用して、分かりやすくし、怪我の減少を啓発したか。 ・児童一人当たりのけがの発生率を昨年度（2.7件）より減少させたか。						
教職員のキャリア形成に関する取組	5	〈現状〉 ○ICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○年次研修や、教育委員会の訪問等を活用し、教職員が互いに学び合うことはできている。 〈課題〉 ○個々の働き方について、更なるマネジメント力の向上が必要である。 ○自己を高めるだけでなく、若手教職員とともに高め合える教職員となれるよう研鑽が必要である。	・教職員用の研修会を実施。 ・ICTを活用した一人1公開授業の全員実施。	・人事評価シートを活用し教職員の資質向上に向けた目標を持たせ、マネジメント力を向上させる。（通年） ・ICT活用能力や不審者対応等、スキルアップの研修会を実施し、職員全体の資質向上を行う。（通年） ・様々な授業研究会等を活用し、指導者に指導を仰ぐ機会を確保するとともに、教職員間で協議し授業力の向上を図る。（通年）	・教職員のスキルアップ研修会を5回以上実施できたか。 ・ICTを活用した一人1公開（研究）授業を全員実施したか。						
			・年間時間外勤務時間を減少させる。	・学校全体の定時退勤日を年間20回以上設けて、計画的に業務を行わせ学校全体の退勤時刻を早める。（通年） ・時間外で行われた業務について見直しをし、時間外の業務を2割削減する。（通年）	・年間時間外勤務時間360時間以内の職員が90％以上になったか。						